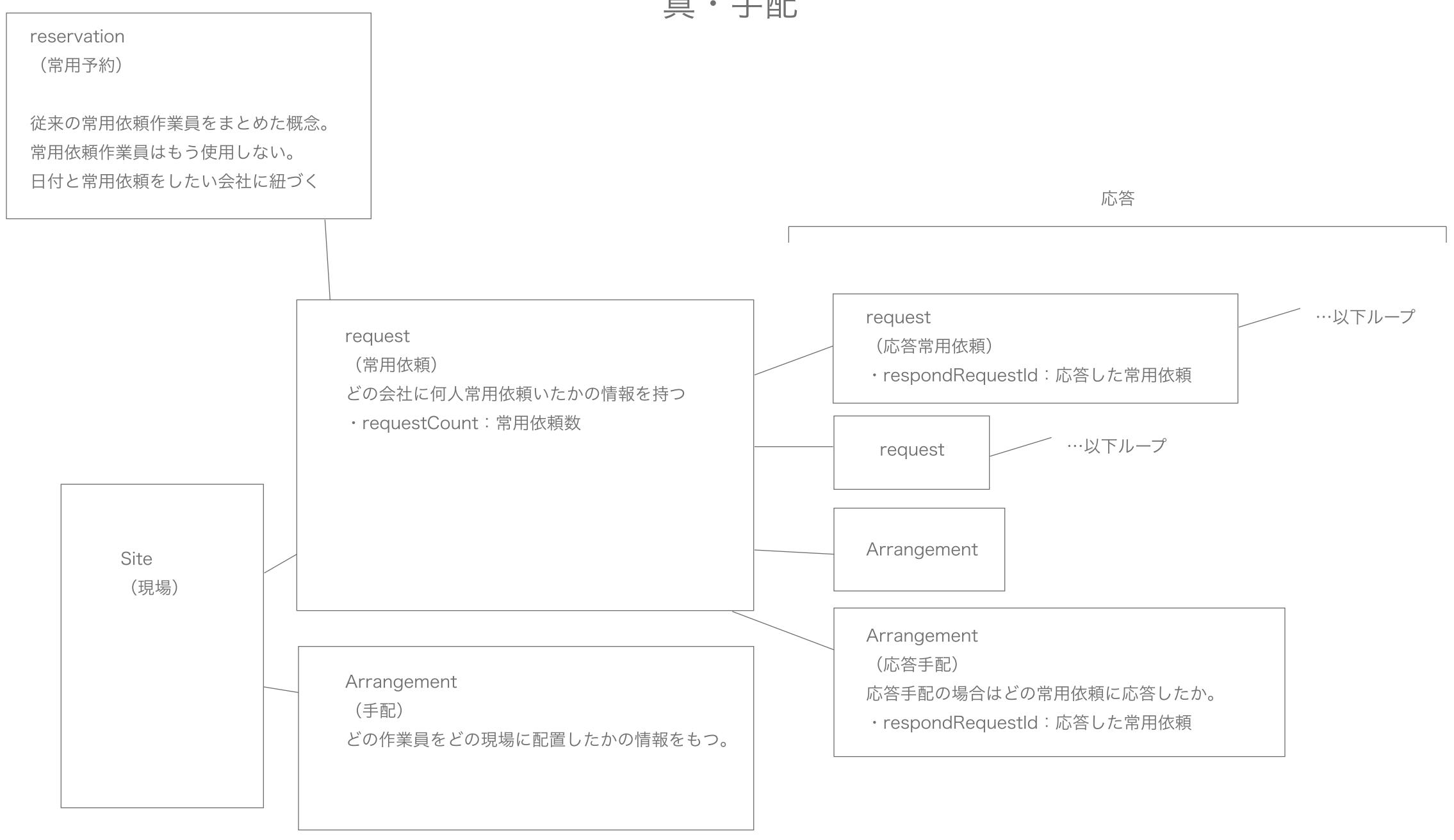
## 真・手配



- ・仮会社施工現場の場合は、一番上が自社への常用依頼(request)になる。つまり常用現場と同じ構造。
- ・仮会社への常用依頼は、常用依頼した瞬間に人数分の応答手配が作成される。

・勤怠と手配が両方存在する場合のことを「常用完了」と呼ぶ。

逆に、そうでない場合は「作業員未確定」=「常用未完了」と呼ぶ。

## request request (応答常用依頼、subRequest) (常用依頼) ・respondRequestId:応答した常用依頼 ·requestCount:常用依頼数 initialStockedAttendancelds : initialStockedAttendancelds (string[]) : 上の常用依頼から渡された勤怠IDを記録する。 常用依頼数分の勤怠IDを保持する。 あとは同様。 IDのみであり勤怠データが存在するとは限らない。 目的は、多重階層の常用依頼において、勤怠IDを …以下ループ 統一するため。応答した場合に、下の常用依頼や手配 へ使用してない勤怠IDを渡す。 統一していないと常用依頼の流れが A => B => Cのとき、最終的なCの応答手配を取得 …以下ループ するために、階層を全て取得する必要があり非常に request 面倒でコストがかかる。統一していたらこの勤怠ID Attendance リストを全捜査するだけで済む。 (勤怠) 手配と1対1で繋がる Arrangement Site ・stockedAttendancelds (string[]):まだ使用して (現場) ない勤怠ID。ここから下の応答に勤怠IDを渡す。 Arrangement (応答手配、subArrangement) Arrangement 応答手配の場合はどの常用依頼に応答したか。 (手配) ・respondRequestId:応答した常用依頼 どの作業員をどの現場に配置したかの情報をもつ。 ・attendanceld:上の常用依頼から渡された勤怠IDを使用する。